北東中だより

甲府市立北東中学校
学校だより　No.6
2019年9月27日
文責　石川　健

−熱き2日間、素晴らしき成果−

～「拓」　無限に広がる僕らの可能性～

今年の学園祭は、天候が非常に不安定の中の開催となりました。甲府市内の学校でも、体育部門を延期にしたり、1日目の文化部門と2日目の体育部門を入れ替えたりと四苦八苦している様子でした。でも、結果的には雨を危ぶみながらも、結局最後まで雨に降られず開催することができました。むしろ、曇って涼しい中、体育部門ができたことは、とても良かったです。

文化部門では、各学年の発表劇が素晴らしかったです。劇を見てくださった多くの方から絶賛の言葉をいただきました。1年生の『河童の涙』は、人間とカッパの交流を通して「いじめ」について考えるといった内容でした。演技も動きも素晴らしく、心に迫ってくるものがありました。外部の方から絶賛されました。

２年生の『いつも心に音楽を』は、戦争によって将来の夢が絶たれた青年を中心に甲府にあった４９連隊を通して戦争とは何か、平和とは何かを考える内容でした。それぞれの生徒の個性や演技力が素晴らしい劇でした。来年の3年生の劇も楽しみです。

３年生の『グッバイ・マイ』は、かなり以前から中学校で演じられている名作で、生まれる前の人間が、生まれてから苦労することを知りながらそれに立ち向かって行こうとする話しです。さすが３年生という、抜群の演技力と構成になっていました。３年生には、多くの名優がいることがよく分かりました。

また、展示も時間をかけてていねいに仕上げた大作が多く、各学年の努力の跡がうかがえました。そのほかにも、毎年恒例の吹奏楽部の演奏、学年合唱、など盛りだくさんでした。また、オープニングでは、『広島平和記念式典報告』を望月知沙子さん、保坂恒希くんが、『デモイン訪問参加報告』は、原花野さん、根津英大くん、保阪有俊くんがそれぞれ自らの体験を多くの写真を使いながら見事なプレゼンテーションを行ってくれました。

今年も、『拓』にふさわしく、北東中生徒の可能性を存分に発揮することのできた二葉祭文化部門でした。

二葉祭体育部門

９月２１日（土）５：３０に体育部門の開催を決定しました。この日を待ちわびていた生徒たちが、笑顔で登校し、朝からテントの設営、ライン引きとてきぱきと動いている姿がとてもたくましく感じました。全体としては、各学年・ブロックごとに全力で頑張る姿が印象的でした。また、応援では自分の学級、ブロックはもとより、他クラスや他ブロックに対しても暖かい応援を送る姿には感激しました。天候の関係で競技の順番や時間短縮など多くの困難はありましたが、とても快適な中で練習の成果を十分発揮し、お互いを尊重し合える素晴らしい体育部門だったと思います。中心になって頑張ってくれた３年生のみなさんには心から感謝します。

一瀬メイさんとふれあう会

９月２５日、甲府市のドリームキャンパス事業として、パラリンピック女子競泳で今、最も注目を集めている一瀬メイさんをお招きし、全校生徒とふれあう貴重な時間を持たせていただきました。一瀬さんは、小さい頃母親の実家のある甲府市のたこ公園などでよく遊んだそうです。現在は、近畿大学に所属し、大学とオーストラリアを拠点に活動しています。ふれあう会では、１年青木君、中澤さん、２年伊藤君、長谷川さん、石部君３年原さん、松土君に会の構成に協力してもらいました。その中で、挫折をバネに頑張れた話の他、夢・友情などのテーマを終始明るく、笑顔で多くのことを私たちに伝えてくださいました。来年のパラリンピックでは、メダルを目指して頑張ってほしいです。北東中全員で応援します。

−全国学力・学習状況調査の結果から−

～自己の課題に向き合い、地道に取組むことが大切です！～

学力調査の分析結果の概要

１．本校の状況

国語、数学、英語科のすべての分野において、県及び全国の平均を上回っており、かなり良好な結果でした。特に、英語の得点は県、全国の平均を大きく上回っています。しかし、各教科ごとに個々の分野や全体としての課題もあり、その克服に向けて、取組が必要です。

＜参考＞県・国の平均正答率

	国語	数学	英語
山梨県	**75**	**60**	５５
全　国	７２．８	５９．８	５６．０

※山梨の平均点は整数になっています。太字は、山梨県が全国を上回っているもの。

２．本校の主な課題

■国　語

▼　文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを持つことが苦手である。

▼　話し合いに関して、自分の考えを持つことが苦手である。

■数　学

▼　学習指導要領の領域別に見ると，関数について事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。事象に即して解釈することが不十分である。また，表からｘとｙの関係を式に表すことが不十分な生徒が目立つ。

▼　評価の観点別に見ると，数学的な見方や考え方について，資料の傾向を的確に捉え判断する理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。総じて記述式の問題形式に苦手意識がある。

▼簡単な連立２元１次方程式が解けていないといった基礎基本が定着していない生徒がいる。

■英　語

▼「聞き取ったメッセージに対して、自分でアドバイスを考えて書く」設問において、１割を切る正答率と、３割近い無回答率がある。聞くこと自体はおおむねできているが、聞いた内容に対して、適切に応答することに課題がある。【聞くこと】

▼　読み取った内容に対する自分の考えを書いて表現するという問題が２割程度の正解率となっており、課題が残る。【読むこと】

▼　最も正答率が低く、与えられたテーマに対して自分の意見を書く問題である。単文ではなくある程度の長さの文章を書くことに、大きな課題がある。【書くこと】

▼　最初の基本的な問題の正答率がとても低かった。初めてのヘッドセットを使ったテストであったことと、隣の生徒との距離が近く、短い文での解答のため隣の生徒の声に惑わされてしまった生徒も多かったように思う。中には６割の正答率のある問題もあるにはあったが、全体として非常に課題の多い分野であることが浮き彫りになった。【話すこと】

３．教科における主な改善点

□国　語

○　漢字や語句に関する学習では、暗記だけではなく、学習した知識を活用し定着を図っていく。
○　理由や根拠をもとに自分の考えをもち、小集団を用いながら、その考えを述べる場面をこれまで以上に数多く設定していく。
○　自分の考えを書くことに関しては、短くても自分の考えを書く場面の設定を増やしていく。
○　ノートの授業の振り返り欄の記入を継続し、書く内容の向上に努める。

□数　学

○　事象を数学的に解釈する際に丁寧に取り扱い，問題解決の方法を数学的な言葉や式で表現する機会を多く設定する。
○　数学的な表現を用いて説明する問題に対して，あきらめず最後まで解答を書くという指導を行う。
○　基礎基本的な内容に関しては，振り返り機会を適宜設けて取り組ませる。

□英　語

○　授業の中に、話すこと、書くことの場面を意図的に取り入れていく。
○【話すこと】では、日常的な自然な会話場面を、具体的な設定の中で練習できるような工夫をする。
○　【書くこと】では、基本文の定着から少しずつ段階を追った学習場面を設定していく。

学習状況調査（質問紙調査）の分析結果の概要

１．本校の状況

今回の調査では、多くの項目で肯定的な回答が高い傾向にあり、質問項目のほとんどが国の平均を上回っていました。本校生徒のよさを改めて確認できました。

■肯定的回答が非常に高い（80%以上）質問項目

○　学校の規則を守っている。
○　いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
○　人の役に立つ人間になりたいと思う。
○　朝食を毎日食べている。
○　学校に行くのが楽しい。
○　学級みんなで話し合ったことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある。
○　ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。

■【教科学習】で肯定的回答が非常に高い（80%以上）質問項目

○　国語の授業の内容がよくわかる。
○　国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。
○　数学の授業は大切だ。

２．本校の主な課題

質問紙調査から伺われる課題については、次の２点が挙げられます。

（１）生活リズムが安定していない。

「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に関して、県及び全国の平均を下回っています。また、平日帰宅後に「テレビを見たりゲームをしたりインターネットをする」という回答も全国平均を上回っています。安定した睡眠時間の確保が課題になっています。

（２）家庭学習の習慣ができていない。

「学校の授業以外に家庭で学習する時間」、「読書をする時間」、「新聞を読みますか」という質問に対して、多くの生徒が否定的な解答をしています。家庭学習での学習習慣の確率が大きな課題です。

学校としての今後の取組み

今後も全学年、授業を大切にし、共に学び合う姿勢を培って行きたいと考えています。そのために、以下のことを意識し、改善を図ります。

① 今回の調査で課題の見られた領域や問題について、復習する機会を設けていきます。
② 家庭学習が重要です。自主学習ノートの取り組みを充実させるとともに、授業との関連を意識した課題を継続していきます。
③ 基礎的・基本的な学習内容について、各教科で小テストやドリル・学習プリントなどを活用し、基礎・基本の定着を図ります。
④ 授業の中で、自分の考えや思い、説明などを「書く」活動を意識して行っていきます。
⑤ 授業の中で、学習内容をもう一歩進めて考える機会をつくったり、学校生活の中で、話し合い活動やスピーチなど自分の考えを述べる場面を設定したりします。まず個人でじっくりと考えるとともに、全員が参加して意見交換を行ったり、互いに学び合ったりすることで、思考力・判断力・表現力の一層の向上を目指します。